

生野中学校区 学校適正配置検討会議（第5回） 会議録

1 日 時 令和2年10月28日（水） 午後7時から

2 場 所 生野中学校 1階ホール

3 出席者

（委員）

石川 隆久委員、浮田 和之委員、大西 範幸委員、金城 知男委員、金 賢一委員、
菰池 愛委員、下村 泰子委員、古瀬 浩久委員、森 秀直委員（座長）、吉田 貴司委員
（学校）

楠井 誠二（生野中学校長）、末田 美幸（林寺小学校長）、中山 吉一（生野小学校長）、
庄司 量士（舎利寺小学校長）、禰宜田 陽子（西生野小学校長）

（教育委員会事務局）

山口 照美（生野区長兼生野区担当教育次長）、川本 祥生（政策推進担当部長）、櫻井
大輔（生野区副区長兼生野区教育担当部長）、花月 良祐（総務部学校適正配置担当課長
兼生野区役所地域活性化担当課長）、大川 博史（地域活性化担当課長兼教育委員会事務局
総務部生野区教育担当課長）、川楠 政宏（地域活性化担当課長代理兼教育委員会事務局
総務部教育政策課生野区教育担当課長代理）、竹口 一吉（学事課担当係長）、竹中 一
郎（生野区役所地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長）、
白石 秀一（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員会事務局総務部教育政策課係員）、
西川 明宏（生野区役所地域まちづくり課係員兼教育委員会事務局総務部教育政策課係員）
（傍聴）2名

4 議題

- （1）標準服等専門部会の開催結果について
- （2）校章・校歌専門部会の開催結果について
- （3）その他

5 議事要旨

（1）行政からの説明

【標準服等専門部会の開催結果について】

（標準服等専門部会長である委員より報告）

（報告資料1に沿って報告）

- ・新しい標準服に求める事項として、保護者の方に実施するアンケートの内容について意見交換を行った。
- ・新しい標準服等に求める意見を集約するための保護者向けアンケートを、学校を通じて10月26日から10月30日に実施し、次回の専門部会における意見交換の参考とする。
- ・貸与する種別等について、学校と教育委員会事務局が検討のうえ示される義務教育学校の教育課程を踏まえて、次回の専門部会において検討する。

【校章・校歌専門部会の開催結果について】

（校章・校歌専門部会長である委員より報告）

(報告資料2に沿って報告)

●校章について

- ・行政及び学校教員作成案と学校教員の意見を参考に、アンケート実施に向けて、34件から参考資料2-2のとおり、6件まで校章案の絞り込みを行った。
- ・絞り込む前の校章案34件は、今後、区役所ホームページの専門部会における議事資料として掲載される。
- ・アンケートは、学校を通じて保護者を対象に10月26日から10月30日に実施し、アンケート結果は、次回の専門部会における校章案を選定する際の参考とする

●校歌について

- ・専門部会での意見交換において、現行の生野中学校の校歌は、作者の経歴等から素晴らしいものであり、新しい校歌をつくるよりも、継承して誰でもいつまでも覚えているほうがよいのではないかと、との意見があったことから、現行の生野中学校の校歌を活用する方向性とした。
- ・生野中学校の現行の校歌を活用し、歌詞の変更は校名のみとすることについて、意見交換いただきたい。

【その他：PTA組織へのご意見について】

(説明者：大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

(参考資料に沿って説明)

- ・前回の検討会議でPTA組織がどうなっていくのかといったご意見を頂戴したため、大阪市内の小中一貫校、近隣の自治体の小中一貫校や義務教育学校について、それぞれPTAの組織がどうなっているのかまとめた。
- ・大阪市内での上から4番目の学校については、PTA組織は、小学校、中学校で別組織になっている。下から3つ目の学校は、義務教育学校のため前期・後期という表現になるが、別の組織になっている。この2つは別組織であり、それ以外は小中一貫校も義務教育学校も含めてPTA組織は全て一本化されていると伺った。
- ・資料右端に備考欄として記載しているが、先ほど申し上げた小中別組織の学校では、両校とも現状では不都合はないといった話で伺っている。
- ・一方、資料一番下の学校から、PTAの行事に中学生が参加しやすくなったといったような話を伺った。
- ・今後、この生野未来学園のPTA組織をどういった形にしていくかについては、あくまでもPTA組織は任意団体という位置づけにはなってくるが、それぞれ前期課程と後期課程を別で持つのか、一体として持つのか、それをどういった場で話し合いをしていくのかについて、行政にて場の設定など、精いっぱい協力していきたい。

(2) 意見交換内容

【標準服等専門部会の開催結果について】

(委員)

- ・僕の下の子が幼稚園に今、行っているんですけども。その中で、幼稚園に行かれているママさんたちから、どうしてもよく僕も耳にするのが、今は就学前健診とかも多分もう行

われたと思うんですけども、小学校は半ズボンなんですけど、1年生から9年生までになったらやっぱり半ズボンでなくなるのかとか、そのあたりのことをすごく聞いてくるんです。例えば、大きめのものを買う必要があるかどうかとか、1年だけやったら今のサイズでいいのか。それとも、やっぱり半ズボンはそのまま併用して義務教育学校になっても使うのかなど。そのあたりをお母さんたちがちょっと心配されているというか。もし、今の時点ではちょっとわからないことなのかもしれないですけども、そういう意見があったんで、この場でお話しさせていただきたいかなと思いました。

(委員)

- ・専門部会でも、それは一応、義務教育学校として小学校向けの制服、中学校向けの制服としてつくるのか、統一した同じやつをつくるのかとか、今、ちょっと検討中です。小学校1年生、2年生、3年生、4年生とか、小学生は大体半ズボンなんで、半ズボンのズボン丈をちょっと長くしてとか、いろんな意見が出ています。ほんなら、5年生、6年生はどうするんやとか。5、6、7年生とか、中学校、小学校で完全に分けるんかとか。その辺はちょっと検討中です。だから、小学校5年生からは、もし買いかえるのであれば中学校用の制服を着用してもいいかどうかとか。それも学校側の教育の中で指導とかをする中でどうしたらええんかとかいう、その辺もいろいろと、今、検討している最中です。
- ・ただ、小学1年生で長ズボンはちょっとオプションで作ってももいいと思うんですがどうしても価格に跳ね上がってくるんです。中学校の制服と同じような形にすれば、今、近隣校で販売しているズボンは9,000円、1万円て簡単にしますね。小学校用の半ズボンというのと大体3,000円前後ぐらいです。だから、その辺の価格差をどう埋めるんやと。小学生やから小っちゃいからというて値段が3分の1になんのんかていうたら、決してそういうことはないんで。だから、その辺も含めてちょっと検討中です。そこでアンケートをいろいろ書いていますけれども、その中からチョイスしながら検討していこうと思っています。
- ・ほか、何かありますか。

(委員)

- ・現状では、僕はよく質問されるんですが、答えようがないということになってきますか。

(委員)

- ・検討中です。ただ、普通に考えたら、小学生に長ズボンというのもちょっとしんどいと思われるところもあるかもしれないと。

(委員)

- ・でも、「もう1年生から9年生まで絶対同じ制服やから長ズボンやで」と言う人が結構多いんです。これは、勝手に決めつけてはるんですけども。だから、それに対して、僕もこういう会議に出てるんで何かお答えしたいなと思うんですが、ちょっとそのあたりがどう答えていいかなと思ひまして。

(委員)

- ・そこが、そやから価格とのいえば折衝といいますか。統一感を持った制服というのは一応考えているんです。小学校向きであっても、中学校向きであっても、統一感のある制服という形、標準服という形にしたら、中学年で買いかえるときに中学校向きの制服を買って

も違和感がないような状況とかいうのは、今、考えていますが。

- ・その辺がどこまで。はっきり言うて、もう小学校は半ズボンやとか、中学校は長ズボンやと、そこまでは決定できていないです。

(委員)

- ・旧制服の着用の可否というのは、この部会での検討事案になるんですか。

(委員)

- ・それは、制服検討部会の範疇ではないと思います。

(竹口学事課担当係長)

- ・学校の校長先生、学校での運用になってくるかと思います。基本的には、在校生に対しては貸与という形で新しくお渡しをさせていただくんですけども。せっかく買って1年しか使っていないものを着ていいよとかいうのは、学校の運用になってきますけれども。基本的には、標準服なので揃えるというのが基本かなと思いますが。

(委員)

- ・その部会では旧制服の取り扱い、可否については、判断することはないということになりますね。

(竹口学事課担当係長)

- ・そうです。委員の皆様からいただいたご意見というのは、校長先生もそこには一緒に出席しておりますので、そこで学校の運用とか、そういったところで考えていくことになります。

(委員)

- ・ちょっと意見として伝えておきたいのは、やはりよく聞くのは「今の中学生たちが卒業して、その制服を下の子にと思っているけれども、これは置いといてもしやあないんかな。どうなの」と聞かれる。で、「本当やったら、これ、体大きいから10歳から着れるで、この中学の制服。着てもええやろ、そなん」と言うてる親ももちろんいる。で、その判断は「どうなん」と聞かれても「知らんわ」としか言いようがないんですが。そういったお悩みがすごく溢れていて。特に中学生です。例えば、今は中学3年生で卒業すると。で、下に2年生、3年生の弟や妹がおると。それが同姓やったときに「制服置いとこか」であるとか、「次はこの子にあげよか」とか。そういうリサイクルの文化というのは結構根づいているところはあるので、新校で検討される際にはぜひとも考慮していただきたいと思います。

(委員)

- ・新校で制服が変わりますけれども、現中学校でもモデルチェンジしているわけです。生野中学校であっても、今の制服になって約20年ぐらいですけれども、その前というのは詰め襟であったりとか。ほかの学校で、大阪市内全部の中学校でも2回目3回目のモデルチェンジというので、旧制服と新制服というので変わっていつているのがあります。僕の経験からすれば、今まで何十校かそれに携わっていますけれども、新しい制服になって古い制服を持ち下げるといふか、1年生に入る子に譲渡せえへんかということで、僕が見てきた中では、新1年生になる子が古い制服を着てきたということはほとんどないですね。新しい

服を買われています。そら、もったいないと言えばもったいないかもしれませんが。一応標準服なんで、絶対それやないとあかんのか、前の服を着ていったらあかんのかという親もいてましたけれども、結局、最終的にはやっぱり新しい形の制服を着て入学されたというのはあります。

(委員)

- 地域に、旧制服持ってる人は新しい制服がもらえるみたいな話だけが広がっているんです。だから、子どもが持ち下がりや誰かのお下がりや旧制服を着とって、その旧制服は新しい制服と交換してくれんとか、そういう話がいっぱい広まるんです。その広がりを、別にほぼ間違いなく新しいのを買うとか、そんなんは各地域の事情とかいろいろあるとは思いますが、そういう取り扱いです。いろいろなケースが起こることを念頭に置いて、で想定して取り組んでいかないとだめでしょうということです。

(委員)

- 新入生に関しては、購入してもらわんとあかんということが建前です。お兄ちゃんがおつて、お兄ちゃんの服でいこうと思っただけで、制服が変わったから、そやからこの制服を新しい形の制服に変えてくれって、それはちょっとおかしい考え方なんで、そこはきちんと対応はせんと思えます。だから、古い制服を着たいという人を、絶対に着たらあかんということではできないですけれども、その古い制服を新しい形の制服と交換してくれという、それはちょっとできませんということです。2年生、3年生とか在校生に関しては、一応持ち下がりやそれを着ているかもしれないですけれども、基本的には入学するときにやっぱり全部そろえてはるというのがあって。だから、入学するときに旧制服を全てそろえたと。その子が新しい制服になったからというんで2年生になるときに新しい服をまた買えというのはちょっと酷やと思うんですけれども、そうじゃない、貸与するという形で貸し出しなので。そこはいろんな意見はあるかもしれないですが、どこかで線を引かんとあかんと思えます。
- 何かありますか。

(山口生野区長兼生野区担当教育次長)

- どんな形になるかもわからないですが。要は、買いかえるのがちょっと厳しいとか、お下がりを使いたいというのは、経済的な事情もあるかと思うんです。多分、就学援助とかをもう一回確認しますけれども、経済的にしんどい家庭には入学の準備のときに対応ができる制度があったりもします。また、誤解を招かないような発信をしないといけないということやと思いますので、そこは整理して正しく伝えるようにします。今の時点では、ちょっと明解にこちらでも答えられない部分もありますけれども、ちゃんと知らせるようにはします。ご意見ありがとうございます。

【校章・校歌専門部会の開催結果について】

●校章について

(委員)

- 校章を6個に絞られたということで、これは、昨日、一昨日かな、学校からもらってきて、子どもたちも選んでいたのですが。これ自体は、そこで初めて見たのですが。校名のとき

とかも、結構部会で何個かに絞り込んで、子どもたちにアンケートをとるという段階で、この検討会議でこっぴどきに絞り込みましたという案でみんなで一回見てもらって、そこでオーケーという形やったと思うんですけども。

- ・この校章に関しては、既にアンケートはもうとられているという感じなんですけれども。このあたりは、校名のとときと若干やり方が違うと言うたらおかしいんですけども、いいんですけれども、何かなぜ違うんかなと。一回みんなで6個まで絞り込みましたよと、これでいいですかと校名のとときにはやったと思うんですけども、そのあたりはどういうことが言えるんですか。

(竹口学事課担当係長)

- ・校名のとときと若干違うところはあるかと思うんですけども。校名は全体の今後の学校の顔といたしますか、名前ということもありましたし、方向性というところで、一旦皆様に見ていただきたいというところもありましたので、校名のとときには皆様にご覧いただいたんですけども。今回、アンケートのところというのは、今回、アンケートを選んでいるのは、大体各小学校、中学校の教員の先生から出てきたもの1校ずつ分ぐらいから選んでいるということもありますので、そこの中では方向性というよりかは、もう一旦専門部会で絞り込んだものというのを皆様に見ていただくということで、前回の校名のとときみたいに一旦校名の方向性を皆さんでご議論しようというのとは異なるかなと思っています。

(委員)

- ・昨日もちょっと初めて見させていただいたんですけども。4番の生野小学校の校章をベースに、それは構わないと思うんですけども。もう見た瞬間に生野小学校の校章やと僕も思ったんですが。校名のとときも、4校の名前が入らないようにという感じで進めていったと思うんですけども。別に生野小学校のが使われるのが悪いという意味じゃないんですが。ちょっと生野小学校さんののが使われているというか、そのあたりは特に問題なかったのかなという気はしますけれども。

(竹口学事課担当係長)

- ・そうですね。その部会のとときにはそういったご意見はありませんでした。生野小学校のデザインを使ったというよりかは、生野小学校のデザインというのが、片仮名のイが9つで「いく」で中に「の」を足して「いくの」ということで、生野小学校のデザインというよりかは、生野未来学園の生野というものが表すものとして絞り込んだものと思っています。

(委員)

- ・そうとって、普通の保護者がいただいたらいいとは思うんですけども。生野という名前なので、生野小学校も生野ではありますけれども、例えばですけども、4番が選ばれたときに、生野小学校の校章のイメージが強い。で、生野未来学園にも生野とついている。だから、生野でいいとは思うんですけども。そうなると、どちらかいうたら校章も似てたら、生野小学校も生野という感じにも捉えられないかな。今は生野は同じやからいいと言われましたけれども、生野小学校の校章に似ているだけに、未来学園の生野も生野小学校の生野というイメージにつながってしまわないかなと。別に生野小学校のあれを否定しているとか、そんなんじゃないんですけども、単純にそういうことが。僕が考え

過ぎやったらいいんですけども。それはちょっと思ったのですが。考え過ぎですか。

(委員)

- ・森さん、いいかな。

(委員)

- ・はい。

(委員)

- ・吉田さん、いいかな。

(委員)

- ・はい、いいです。

(委員)

- ・今回、この校章を先にポンと6個をなぜ決めたかという、まず数が多かったというのがありますし、みんなそれぞれデザインというのはいろんなイメージで持っていけると思うんです。まず最初に校歌・校章の部会で決まったことというのは、まずわかりやすい。「この校章は何やねん」じゃなくて、未来永劫、いうたら自分らが「この校章の意味はこういう意味なんやで」というのを選びたいねというのがまず基本にあるんです。だから、今、生野小学校の校章がどうのこうのと言われているんですけども、僕はこれを推しているわけでもなんでもなくて、やっぱり先生方をお願いしたときには、こういう形で出る学校名というのは多くあった。これは、みんな見ていないでしょうけれども、三十何個来てたんやね。その中の3分の2ぐらいがこれなんです。

- ・このイが9個なんです。やっぱりデザインというのは、みんながさっと見て「あ、イが9個ある。生野やねんな」と。やっぱりそういう形で保護者にもわかりやすくというのがまず基本なんです。部会の中で話し合ったときに、そういうふうにしていきたいねと。保護者が子どもらに、この校章の意味はこういう意味があるんやでということをしちつと言えるようにしたい。皆さん、それぞれの学校の校章の意味というのはわかってはと思うんですけども、やっぱり単純に誰が何を言わんでも、パッと見たら、あ、ここやねんと言えりような校章がいいよねというので。別にこれは委員が結構推しているとかそういうのじゃなくて、やっぱりそういうふうにしていきたいねと。校章はみんなにわかりやすくしたいよねと。何かゴチャゴチャというやつじゃなくて、簡単でみんながわかる、保護者もそれによってわかるというやうな校章にしていきたいなという中でこういう形になったというのがあります。で、三十何個出ているんですけど、その中で6個に絞ったほうが、部会長も言うてはるんやけれども、絞って先に出したほうが皆さんの理解が早いです。なぜそこまで急ぐねんという、制服に対してワッペンをつけるのかとか、帽子はどうするのかと。まだ決まていないところが多いんで。でも、やっぱりそれではなかなか進まれへんやろから、じゃあ、もうそこで先に進めていこうという形で、この6個に絞らせてもらったと。

- ・で、これはアンケートをとって、これは子どもらに向けてるんじゃないで、保護者に向けてとったんです。やっぱり保護者の方にわかってもらえるようにという意味で。校章なんて、多分子どもらはわからないです。申し訳ないですけども、ほかの学校の子たちはど

うか知らないですが、生野小学校の子たちは「自分の校章を言うてみ」と言うたら、1年生はみんな言えるはずです。それぐらいの自負は持っているんで、僕の中では。だから、そういうふうになりやすい校章にしていこうと。で、早目に決めて、それをエンブレムにするのか、帽子をかぶったときに帽子につけるのかとかいう形で、また対応していこうという形で、今、進めているという形なので、それを全部出せへんかったというのはそういうことなんです。それで理解してもらえますか。

- で、この生野の校章というのはそういうことで、いろんな方たちから出してもらった方の1つということ。このパターンはもっとあるんです。3分の1ぐらいですね。8個や、6個ぐらいあるんです。それを全部入れてもしゃあないんで。でも、これが一番あれかなというので選ばせてもらって、ほかの出していただいた役所の方、西生野の先生、林寺の先生のやつもやっぱり目を通して一つずつ選ばせてもらっているんです。という形です。
- それでも前とやり方が違うと言われると、僕らが部会でやっているわけやから、それに対して意見をいただくのは構わないんですが、こういう形で今は進んでいるという形なんです。それは、理解していただけたらありがたいかなと思いますんで。

(委員)

- そやから、6案で、これが生野小学校のイメージが強いから嫌やという人が多かったら、これに票はあんまり入れへんやろうし。そんなん関係ない、ようわかるやんという人がいたら、これがええという人が出てくるかもしれへんし。それはちょっとアンケートで。

(委員)

- 偏りが気になるんです。どこかに何かに似ている、圧倒的に何かに似ているというものがあると、それを支持する、しない人という変な偏りがあるじゃないですか。

(委員)

- あります。

(委員)

- それが気になりますよね。そういう偏りは排除した上で、純粋にそのマークとしてどうなのという評価をしてほしいけれども、そこにその偏りが加わってしまうというのは、やむを得ないのかなとは思いますが。

(委員)

- 申しわけない。偏りといわれると、校名のときからに戻ってしまうんや。

(委員)

- もちろん。

(委員)

- これは生野なんか要らんやんけという。

(委員)

- だから、生野のそれで偏りがあるのと同じように。

(委員)

- それは、部会において一所懸命考えて、アンケートをとって。だから、俺は何も言わなかったし。これに関しても、うちの先生方がこういうような形でというのを出してもらった

し、区役所のほうからも5、6案出てるんやね。こういう校章というのが。やっぱり、だから生野に対してこの校章というのは、やっぱりすばらしいんやろね。

(委員)

- ・生野小学校に関わっている人は、生野小学校の校章を知ってるから、これが生野小学校の校章ちゃうかとわかるけれども、僕らは全然知らんから、全くそういう目では見いひん感じやね。
- ・だから、これを全部見た中で、どれが一番ほんまにこれをエンブレムにしたりとか、帽子の押す形にしたりとか、ボタンにしたりとかしたときに、どれが一番わかりやすうてええかなていう、そこしか考えへんけれども。

(委員)

- ・俺にしたら、そういうふうには純粋に考えていただけるのがありがたいです。確かにうちの学校のあれになるけれども。でも、多分やっぱり一番わかりやすいやろし、ほかの学校もいうたら全部わかりやすいはずなんです。で、いろんなやつがあつて、その中でみんな検討して、これにしましょかということで。だから、部会のほうで、やっぱり決めていていることというのがあるので、まずその中でこういうふうに出して。

(委員)

- ・アンケートをとってやったらいいと思います。ほんで、僕にしたら5番はもう未来て書いてある。僕は生野中学校出身やから、生野中学校の校章に似てるんちゃうんかとかいうて、反対に思ってしまうですね。

(委員)

- ・よろしいですか。

(委員)

- ・はい。

(委員)

- ・今のご意見の中で思ったのは、4番の案なのですが、その理由のところ、生野小学校の校章をベースにというふうな文言が書いてあるんです。で、私は、これは部会に出た人間として、ここの部分を入っているというのは、先ほどの金さんがおっしゃったように、平等的な観点からいくと、私もこれに気がつけばよかったのかというところはちょっと思ったりもしました。ただ、このデザイン自体は事前にいただいた案の中では結構複数多かったので、その中の一番生野小学校のイメージからは離れた新しい学校にして、真ん中に平仮名の「の」とアルファベットの「M」をうまく組み合わせたデザインというのが一番この中ではいいだろうという、たしかそういう内容だったと思うので、これを上げさせていただいたということになります。ただ、このデザインの理由の文言にこれが入っているというところについては、事前にもうちょっとチェックしといたらよかったのかなというのは思いました。
- ・それと、先ほど金さんがおっしゃったように、アンケート結果についてはやはりしっかりと、偏りという言葉があったんですけども、やはりしっかりと分析はしといたほうがいいと思うんです。生野小学校の方が4番に例えば集中しているとか。しかも、例えばほか

の3つの小学校の子からは例えば極論を言うと1票も入ってなかったよとか。あるいは、3番の校章は、例えば4つの小学校を平等に票を蓄積しているよとか。そういう統計的なところの確認というのはしておいていただきたいという、これは私からも希望です。で、次回の部会の際にきちんとその結果を出していただいて、それをもとに、参考にして、それで確定ではないんで参考にして、その先を進めていきたいというふうに考えています。

・以上です。

(委員)

・これは、そやけど案やから、ここからアレンジができるかもしれへんということですね。

(委員)

・これは参考なので、100%なるかどうか、その部会で決めるとは思うんですが。これは参考という言葉になっているので、一応そういう認識ではいます。

(委員)

・あと色目とか、そんなんも出てくると思うんで。

(委員)

・結局、要はアンケートを、先ほど浮田さんがおっしゃったように、急いでいるというのがあったのは、やはり標準服との連動がどうしてもあるんで、このデザインが例えばさっき言ったようにボタンにそのままいけるのかとか、そういったところもあるので、多少多分アレンジとかも入ってくるのかなと思っています。

・以上です。

●校歌について

(委員)

・生野中学校の校歌につきましては、楠井校長先生からの紹介も予定しております。

(委員)

・では、校歌について、楠井校長先生、お願いいたします。

(楠井生野中学校長)

・失礼します。

・校歌について、生野中学校の校歌を参考にとということでお話いただいて、生野中学校の校長としては非常にありがたいお話だなと思っています。ただ、小学校の校長先生が並んでおられるんで、それぞれ校歌に思いがとおりだと思うんですけども、本校の校歌についてちょっと説明をさせていただきます。資料もございますので。多分、字が見えないと思います。このパワーポイントはあれなんです。本校の音楽科の教員が子どもたちの授業用につくったもので、生野中学が無くなると、この校歌がもうアーカイブに入ってしまうということで、非常に残念がって、子どもたちに授業で生野中学校の校歌はこういう校歌なんだよというのを説明したパワーポイントになります。済みません。ちょっと座らせていただきます。

・本校が昭和22年創立ということで、校歌の作詞ですが、石森延男さんという方に作詞のほうをしていただいております。この方は、ざっといっぱい書いてあるんですが、北海道で生まれになられて、その後、東京に出てこられています。国語の教科書の編纂に長く携

わっておられたというところと、児童文学の創作に取り組んでおられたと。中ほどにございますけれども、北海道のアイヌを主人公とした『コタンの口笛』という本は、これは私も不勉強で読んだことがないんですが、ほとんどの図書館にあるような、そういう有名な本だというふうに聞いております。日本児童文学学会の初代会長も務めておられるということで、児童文学の分野では非常に著名な方だというふうに聞いております。

- それから、作曲のほうです。こちらは、下総皖一さんという方に作曲をしていただいております。この方は、東京音楽学校、今の東京芸術大学を首席で卒業されて、その後、ドイツに留学をされて、ドイツの有名な方にも師事されたというところで、帰ってこられて、東京芸術大学の音楽学部長も務められていると。門下には非常に著名な作曲家の方がたくさんおられると。あわせて、童謡、それから文部省唱歌の作曲も手がけておられます。それから、校歌も、多くの小学校、中学校、高等学校の校歌の作曲も手がけておられるというような、非常に著名な方だというふうに聞いております。
- 皆様のご存じな曲の中で代表的な曲としては『たなばたさま』で、「ささの葉さらさら」ですが、あれはこの下総皖一さんが作曲されたと聞いております。
- 本校の校歌ですけれども、まずこれは70期生がピアノ伴奏で歌ったものです。
- ちょっとお聞きください。

<校歌の斉唱が流れる>

(楠井生野中学校長)

- という曲になっております。ぱっと聞くと、ちょっと難しそうに聞こえると思うんですけども、子どもたちはこういう形でしっかりと歌うことはできております。原曲のほうがとてもいいので、実は、昨年、神奈川フィルハーモニー管弦楽団に芸術鑑賞で来てもらったんですけども、ここの指揮をしておられる先生がオーケストラバージョンに編曲をしてくださったので、それもお聞きください。これは、すごく格好いいので。

<校歌のインストルメントが流れる>

(楠井生野中学校長)

- というような感じになっておりまして、これは壮大ですけれども、昨年、芸術鑑賞でこの神奈川フィルハーモニーにこれを演奏していただいて、全校生徒で校歌を合唱しています。だから、こういう形でも合唱できるような、やっぱり原曲が単純ではなくて、非常に凝ったつくりになっておりますので、初見で聞くと非常に歌いにくそうな感じはするんですけども、こういう形にもなる校歌だということです。
- 歌詞のほうですけれども、1番は今はお聞きいただいたような形で、私はいろんなところで言うてるんですけども、本校の校歌の私が一番すばらしいと思うのは、「わが学びやはつねに新し」という、この最後のくだりが私は本当に好きなんです。これは、歌詞の意味を子どもにわかるように音楽科の教員が書いてくれているんですけども。私がかちょっと不満なのは、「私たちの校舎は今日も新しい」と書いてあるのがちょっと、もうちょっと壮大なんやけどなと思いつつ。もっと深い意味があって、やっぱり学校というのは子どもたちが生活をしていく中でどんどん成長していく、生まれ変わっていく、そういうもんだということをあらわしているんじゃないかなというふうに私は思っているので、これ

がすごく好きなんです。

- ・2番は、今度は「難波の風」というところで、個性を磨いて、学びの庭を、ここも「学園のそこここを美しく」というのも、これも単に学校の中を美しくということではなくて、やっぱり個性が輝く、ちょうどそこにあるんですけれども、済みません、学校の宣伝で、個性が輝くというような意味合いがあるんじゃないかなというふうに思っております。
- ・3番は、ここで「生野の町」というのが出てきますけれども。これも当然新しい学校、生野未来学園なんで、このまちで暮らしている若者、やっぱりしっかりといろんな困難に負けずに耐えて頑張っていこうと。ここも、1番も2番も3番も全部結びは「わが学びやはつねに新し」ということで結ばれています。本校の校歌はこういう形になっております。
- ・以上です。

(委員)

- ・ありがとうございます。
- ・それでは、生野中学校の校歌を継承する案について、ご意見はございますでしょうか。
- ・一つ、楠井校長先生。こんな偉い先生が、何で生野中学校の校歌を、何か縁があったんですか。

(楠井生野中学校長)

- ・いや。さすがに昔のことですので、そこまではわかりません。非常に多くの学校の校歌を手がけておられるというところなので、そのあたりでお願いをしたという経緯があるのかなと。ただ、こういう有名な方にお願いをしているということ自体が、やっぱりうちの音楽科の教育もすごいことなんだということです。

(委員)

- ・そうですね。昭和22年やから、終戦直後ですね。

(楠井生野中学校長)

- ・そうです。

(委員)

- ・昭和22年であれですね。中学校が全部一斉にできた年でしょう。

(楠井生野中学校長)

- ・そうです。多くの学校ができた時代なんで、多くの学校が校歌をつくった時代なんです。その中でやっぱりこういう有名な方、著名な方にお願いをしているというところはあるのかなというふうに思います。

(委員)

- ・何か意見はないでしょうか。

(委員)

- ・先に言うとかわ。いいですか。済みません。
- ・部会するときにもちょっと話させてもらったんですが、まずこの歌詞の中に「つねに新し」という文字があるんです。「つねに新し」、これを見たときに、これはすばらしい校歌やなと、まず僕は思いました。皮肉を言うわけじゃないですよ、古いものはどんどん切っている新しい学校やからというのは、僕は間違っているんだと思うんです。やっぱりそれなり

にきちっとした先生につくっていただいて、やっぱりこういう『たなばたさま』とか。先ほどは『たなばたさま』しかなかったですが、『ゆうやけこやけ』とか、あの辺です。やっぱり誰でも口ずさめるような、きちっと作曲していただいている人にやっていただいたという曲やということで。やっぱり何でもかんでも新しくしようやと。

- もう一つ出るのは、誰に作詞作曲を依頼しても、どこからか文句が出るはずですが。うちから出ると、何でこの人やねん、何でこの人ちゃうねん、舍利寺から何でこいつやねんと、やっぱり出ると思うんです。それやったら、現行のまんま、これだけすばらしい先生方につくっていただいた曲やと。それを何で捨てる必要があるんやと。
- 僕はそういうふうに考えたんで、うちの校長先生にも「生野中学」だけ変えられへんかと言うて。「生野中学」ではやっぱりおかしいんで、やっぱりその辺だけ音楽の先生に変えられへんのかなという形でお願いをしてあったんです。それができるか、できないかはちょっとわからないんですが。やっぱりフレーズをもっと簡単にしようとか、いろんな意見が出ました。でも、この歌詞にそのときの思いとかを全て込めて、生野中学校のためにつくっていただいた曲なんで、簡単に変える必要が僕はないと思っているし、歌詞を読んでも全然見劣りするような歌詞ではないと僕は思っているんで。僕は、これがあかんかったら、本当に新しい学校やったら、もうゴスペルみたいな感じでいこうかと言うて。ほんなら、部長が、輪唱がいいよねとか。そんな話も出ている中で、でもやっぱりこの生野中学校の校歌というのは、別に生野中学校の校歌というのがあれじゃないんですが、やっぱり誰が、何を言うたって、生野中学校の校歌なんです。吉田さんも大西さんも、みんな生野中学校卒業で、この歌を歌ってきたわけです。

(委員)

- 卒業生としては、歌えるんが1番しか歌えないなとか思ったんですが、あとは覚えていないなど。

(委員)

- ことしで年齢はあれをしているんですが、小学校の歌だけどやっぱり今でも歌えるんです。僕は東京のほうなんです。そこの学校の校歌でも、僕は今でも歌えるんで。やっぱり校歌というのも校章というのも、全て大事なもんやなど。片やおろそかに、何でもええかみたいなんではできへんやろなというふうに思っで。で、すごい考えて、この生野中学校の校歌を見たときには本当にすばらしいなと思っで。で、生野中学校の校長の楠井先生からも、音楽の担当の先生がこれをすごい大事にしているというのもお聞きしたし、聞いた上で調べていったら本当にすばらしいやんかとなったんで。皆さんがこれをどう思うか知らんんですが、僕はもうこの現行のまんま、中学の名前を「生野中学校」じゃなくて、そこを「未来」にするのか何にするのかわかんないんですが、そこだけ変えていただいでできたらうれしいかなと。うちの学校なんかでも、小学校の林寺、舍利寺、西生野の全部の各大事にしている校歌があるとは思っですけれども、僕はやっぱりその辺は長である中学校の校歌が、僕は一番いいかなと思っでけれども。うちの校歌やったら、よいこ、強い子、楽しい子かな、明るい子か。やっぱり、それは中学生にはちょっと歌わせられへんのかなと思っで。この歌詞を見ていたら、確かに難しいなというのものもあるかもしれないんですが、1

年生が、じゃあ、各校のこれが簡単なのかといたら絶対そういうこともないやろし。ただ歌い継がれていけば、新しい学校も当たり前のようにこの歌がずっと続いていくのかなと思ったので。

- ・反対意見のある人は今のうちに言うといたいて。本当にすばらしい曲だというのはもう間違いない。今、皆さんに聞いていただいて、わかってもらえると思うんですが、それぐらいの曲なんで。もう一つ最後に言いたいのが、誰が、何をつくっても、文句は出ると思います。何でこいつやみたいな。それが無いというのが僕は一番ベストかなと思っているんで。それにはこの校歌。今から校歌を練習しておいてもらって、開校式のときにばちんと決めて。先ほどの別のバージョンで決めていただくぐらいの勢いでいけたらなと思っていますんで、部長はどちらだろうと考えるので、よろしくお願いします。

(委員)

- ・実は、最初、私はこの校歌について、歌詞のフレーズだけでも募集したらどうかというふうなことを言ったんです。言ったんですけれども、やはり生野中学校の校歌の歌詞を冷静になって見たときに、新しい生野未来学園のように、未来に希望や夢といったものが広がるような歌詞というのが、実はこの中にあるのはあるんです。新しいのもいいんですけども、確かに楠井校長先生からも話がありましたし、部会するときにもいろんな方からお話があったんですけども、すばらしいもので残せるものは残してもいいのではないかなというところで、実は私はのみ込まれてしましまして。のみ込まれたというか、この校歌の歌詞は本当にいいと思ってるんで、こういったものを使ってもいいのではないかなというところで、本日、提案をさせていただきました。

- ・以上です。

(委員)

- ・ありがとうございます。

(委員)

- ・この校歌を継承して、校名、生野中学の部分のみを変えるという形の。

(委員)

- ・そうです。

(委員)

- ・それも、正直難しい。

- ・ここで生野中学の未来学園という形で、あとこれはメロディーも継承するという形で、編曲とかいうのも。

(委員)

- ・なし。

(委員)

- ・なしですか。

(委員)

- ・せっかく作っていただいたやつを、生きているんやったら「ちょっと変えていいですか」と言いに行きたいところやけれども、亡くなりはった人で、大阪教育委員会に学校に権利

があるんですね。でも、そこでわざわざこれだけ素晴らしい先生方が、これだけ素晴らしい曲を生野のためにつくっていただいたやつを変える必要が僕はあるのかなと。そこまで手を変えて、品を変えて、ころころ変えるのが果たして本当にいいことなのかなと俺は思ったので。

(委員)

- ・私も生野中学校の卒業生で、歌詞よりも、私はメロディーです。物すごくテンポがいいという状態。逆に、オーケストラバージョンという、壮大は壮大なんですけど、ちょっと軽快さが。やっぱり生野中学校の校歌というのは、ちょっと軽快さがあって、テンポも物すごく、ほんまに校長が言っておられるように大変難しいメロディーなんです。うちの長女も生野中学校で吹奏楽をやっていました。3女も1年生で吹奏楽に入部させていただいた。一応3女が9年生のときに新しく継承した状態で演奏はできるとは思うんで。そしたら、一応あれですね。校名のみの変更で継承するという形で。

(委員)

- ・校名を入れたら字余りになるんで、今風でええんちゃうん。

(委員)

- ・今の歌は全部字余りよ。

(委員)

- ・ここに中学やからいうて、ここに校名を絶対に入れなあかんというわけでもないやろしね。

(委員)

- ・だから、それらは音楽の先生がどんな形が一番この新しい学校に対していいのか考えていただいている。

(委員)

- ・ただ、「未来」という何かそういう言葉だけでも、また校名というところちょっと。

(委員)

- ・生野中学とかいうたら幼児っぽいけれども、「ああ、タラララーラ」って、たった3文字やからね。難しいね。

(委員)

- ・難しいです。

(委員)

- ・そう。ここに「ああ、生野未来学園」いうて入れたら。

(委員)

- ・「ああ、未来学園」になりますね。

(委員)

- ・それは、また考えてもろて。

(委員)

- ・でも、「私たちの校舎は今日も新しい」という、この先生のセンスはどうやろ。

(委員)

・「学びや」というのは、ほんまは校舎という意味じゃないものね。

(委員)

・校舎ではなくて、学びの場というか。

(楠井生野中学校長)

・そうですね。学びやは学びの場。学びや、好きなんですね。校長がよう言うてるから、子どもらも全部学びやと言うんですね。浮田さんがおっしゃっておられるように、音楽の教員のほうにちょっと相談をしているのですが。申しわけないですけども、先週から体育大会、文化発表会バタバタしてまして、今日が丁度本番なんで、またちょっとあいたら。

(委員)

・いや、全然そんなんまだ先の話やから。ただ、方向性として、それでこの場で了承が得られれば、もう校歌に関してはこれで決定という形やから。校歌というのは、一番難儀やところやから。

(委員)

・あと、何かご意見はありますが。

(委員)

・今後でいうと、だからこれをアンケートをとる訳じゃないですね。

(委員)

・とれへん。こんなもんはせえへんでしょう。

(委員)

・部会で。

(委員)

・部会でこういう形で、この本会議で皆さんのところで異存がなければ。

(委員)

・了承してもらおう。

(委員)

・これでいきましょう。

(委員)

・このフレーズだけ、あと。

(委員)

・フレーズだけ。

(委員)

・生野中学校もなんやかんや言うたって、もう6万、7万人ぐらいの卒業生いてるんでしょ。そやから、みんな昔の人も知ってるからいいんじゃないですか。

(委員)

・何かを残してやらないと。何かを残さないと、各校それぞれで。だから、僕が聞いたのが、梅南津守が統廃合で合併するときも、結局津守がうちと変わらないんですが、140~150年ぐらいで、うちよりもちょっと上やったかな。

・そこが梅南に吸収なんです。で、梅南は梅南小学校のままでいくと言うたらしいんですが、

津守が何とか津守の名前だけと。だから、そのときのその人たちの気持ちはようわかるんです。だから、梅南津守小学校ですよ。逆ですよ。分校が上になったんです。やっぱりそんな関係ない言うかもしれへんけど、やっぱりそういうのを気にする人たちが。うちの地域でもそうですし、うちらも 150 年、4 世代、5 世代という人たちが生野小学校に通って、それが子どもが少ないから閉校でと、本来は簡単に言えるわけではないはずなんです。でも、やっぱりそこをみんなが子どもらのためにというて我慢してもらっている。それぞれの学校がそうやと思うんです。だから、それなりに何かを残してほしい、何かをつけてほしいというのは当然あると思う。だから、やっぱりあの校章に関してもそういうのも出てくるやろうし、これぐらいは残してよみたい。悪いですけど、こんな、俺、今まで言ったことないんやけれども、150 年で本校というプライドも誇りもあった学校やから、やっぱりそれを子どもらのためにといってみんながその地域の人と、全員じゃないですよ、でもこうやってあれしてくれてるわけやから、やっぱりちょっと何かしら形は残してあげたいなというのは正直あります。僕の個人的な意見です。だから、校歌でも、やっぱりすばらしい曲はすばらしい曲で残してあげたらいいし。

(委員)

- ・あと、反対意見などはないですか。

(委員)

- ・なかったら決定ですよ、会長。決定、もうだってそれ。

(委員)

- ・ありがとうございます。

【その他 (PTA 組織へのご意見について)】

(委員)

- ・申しわけないです、ちょっと。あの場の設定ではちょっと弱いと思うんです。ここで、2 機関にわたる、例えば小中別組織にしているところが 2 校ありますが、1 校は小中一貫校で未来学園とは比べることができませんし、残りの 1 校については分離型ということで、なかなか自分たちのところと比較するのは難しいのかなと。
- ・その上で、あわせてするとおっしゃいましたけれども、やはり各校の PTA 組織にどうしましょうかと投げてもらわんと困るんです。これは申しわけないですが、生野中学校 PTA が言い出しっぺとなってやっても別にいいですけども、生野中学校 PTA が言い出しっぺをやったら、ほんなら生野中学校母体でみたい、それは結果そう言ったとしてもしょうがないにしろ、最初からそういう体で話を進んでしまうのは皆さんの自主性も損なわれるし、ましてや今は人材不足が叫ばれている中なので、やっぱりおんぶに抱っこになってしまう姿が容易に想像できます。なので、各校の現在、言うたかて人も少ないですし、今年度と来年度で人事も変わる学校も多いでしょうから、その各校に向けてしっかり投げてほしいです。例えば、解体しますか、それとも現状のまま残すんですか、会計についてはどうされますか、新しい学校で組織をつくる等々をしたらどういった形が望ましいですか。また、前期、後期と言っていますが、前期と後期が 6 年と 3 年になるかどうかも別に確定してないんですね。それについてもそうですし、前期と後期にするんですしたら、それが 6 年と 3

年か、5年と4年になるかわかりませんよ、であるとか。そうでなくて、一本化すべきであろうとか。その考えられるいろんなパターンをしっかりと投げてほしいです。イエス、ノーで答える形で。そうでないと、どうされますか、ご自由にどうぞみたいなんであっても、人材不足で難しいですみたいな答えしか返ってこないですよ。そこは行政が先頭に立ってあげてほしい。そうでないと、皆さんはもちろん自主的にやったださっている PTA 組織ですが、よし、じゃあ、僕らが新組織を立ち上げようという、新しい PTA 組織を設立するんだよというようなパワーはなかなか引き出せないと思うので、ちょっと一肌脱いでいただきたいと思います。

(委員)

- ・もともと PTA は、小学校 PTA と中学校 PTA というのは、やっている内容が全然違います。小学校やったら子どものためにと、思って子どものための行事をようやっていますが、中学校はそうではない PTA 活動なんで。だから、そこで一本化してどうやろうとか。あと、前期と後期、何年に分かれるかわかれへんけども、2つあったら PTA の会長が2人いてると。前期の会長、後期の会長と。それで相談とかいろんなことをしやすいとか。PTA 自体がちょっと変わる事となる。

(委員)

- ・形としては、PTA 会長は1人で、前期の PTA 委員とか、後期の PTA 委員とか、話し合う議題が大きく違うとか、そんなんやったら想像できるんですが。前期と後期で完全に違う PTA 会長がおって、PTA 組織があつてというのは、ちょっと何のために1つの義務教育を作ったというのは思うんです。分離型やと話は、会長はやっぱり1人で、PTA 組織が前期にしっかり代表する委員で分けるという、2期にしたほうがスムーズかなと。

(委員)

- ・済みません。僕らは現 P でも何でもありません。さっき森さんが言われていたように、子どもために小学校ではやる人が多いですね。自分らの子どもを笑わせるために自分らで苦労しようよというのは、僕ら生野小学校の合い言葉でした。ずっと僕が会長のときからそういうような形で。子どもらを喜ばせるのは、楽しんで絶対できないです。自分らが汗水たらして、子どもらを笑わせるために一所懸命やろうと。だから、どういう方向性でその PTA が成り立っていくのかというのを、まず今の例えば5校の会長さんらの中できちっと話をしてもらって、何のために PTA 組織をつくるのかという方針を、まず5校の中で決めていただいて。それから、小学校の会長らにしたら子どものためにと。中学校にしたらやっぱりいろんな考え方を持っていかなあかんし、4つが今まで集まってきた中で。僕らもずっと生野中学校の会長をやってくれと言われてたけれども、僕はもうこんなんやから、4つをまとめ切る事なんかでけへんと言うて、揉めるもとやからと僕はずっとおりにいたんですが。そういうところでしょう。でも、今度は全部が一本化されるということになると、子どもらのためにやるというのと、そうじゃないよというのと、考え方をどういうふうにしていくのかというのを、まず基本ラインを。
- ・行政が声を上げて、こういうふうにしていけというのは当たり前やと思うねんけど。でも、まずこれからの PTA というのはどういうふうな形になっていくんやろうという形づくりを

今からちょっとずつでもしていかないと、はい、よーいどんとなったときに、じゃあ、PTAはどうしようというような、後手後手にしかならへんから、それは行政が言うことではなくて、やっぱり地元のPTA会長とかがやっていくことやと俺は。現Pの今の会長らが来年変わるかもしれへん。それは当然や。でも、台をつくるのは今からでも遅くないと思うし、やっていくのはやっていかないと。逆に、うちの金城君はびゅっと行って、いや、僕は子どものためにしか動かないですよと言うたときに、それが成り立つのか。

(委員)

- ・でも中学生も子どものためですよ。

(委員)

- ・いや、わかっているけど。形が違うでしょう。本当に中学は僕がやっていけれども、形が違うんで。やっぱりそういった意味では、まずは今の5校の会長らがきちっと話をして、どういう形でやっていこうと。だから、1年生から9年生までが同じように子どもらのためにやる、じゃあ、何ができるのとか。やっぱりいろんなことを考えていっておかないと、多分パニックになるんちゃうかなと思ってるし。それこそ、それをパニックになったときに、みんなが新しい学校やら協力するよと言うてくれる人たちがばかりやったらいいけど、こんなやったら面倒くさいからやってられへんわと言って引かれたときに成り立てへんようになってしまうと思うんで。まずは行政のほうから、今の5校の会長らにきちっと話を投げかけて、どういった形で持っていこうというのを、方向性を決めといてあげたらいいと思うし。当然、そこにはOB会だって必要と僕は思っているんで、OB会の会長らにも集まっただいて、そういった形で。舍利寺小学校はないの、今、OB会は。

(委員)

- ・舍利寺小学校はめっちゃめちゃ元気にやっていますよ。

(委員)

- ・やってるやろ。俺、噂で舍利寺かなんかないと言うから。林寺は林寺であるよね。西生野もあるし、うちもあるし。やっぱりそういった形で、どういう支援ができるのかとか。今までの形と全然違うから、前にも言うたみたいに、西生野の人らは全然ここに学校があるから名前が変わっても愛着を持っているけれども、うちの地域の人、林寺の地域の人、舍利寺の地域の人らは1ミリも愛着ないから、ここの学校に。なんぼうちの子が行くと言うたって、ここの場所に対して、新しい学校に対して、愛着なんかほんま1ミリも。昨日もちょっとその話をしている。でも、それをつけていかなあかんわけやから。やっぱりそういった組織というものはひとつ大事になってくると僕は思ってるんで。そういった意味で、そういう投げかけをしていただくというのは大事だと思うんです。僕が呼びかけるのもおかしいから。

(委員)

- ・小学校というか、西生野はこの場所やからと言われるけれども、結局、そうでもない。年寄りというか、OBの年いった人らにしたら、学校が変わるからという愛着があるとかないとか、そんな問題ではないし、今の新しい若い世代の子らにしたら、学校が西生野に残っているからというて、すごく愛着があるんかないんかと。ほかの学校と同じで、やっ

ぱり愛着を持っている人もいてるかもしれへんけど、全然無關心な親もたくさんいてるから。だから、その辺は全然一緒やと思います。ただ、僕が今の PTA の現状を見ていて、やっぱり少子化で家庭数も少ないしというて、それが 4 校集まってみんなが一生懸命やろうや、頑張ろうやというリーダーがいて、まとめられる人がいてるかどうかわからへんし、それに乗っていく人がいてる、いてないというのものもあるかもしれへんけれども。自分がやったときには、一応全員委員会にしたんです。委員会に必ずどこかに所属しなさいと。1 年のうち 1 回だけでもええから出て来なさいとか、1 年のうち 1 回 1 時間でもええから、15 分でもええから出てきてくださいよという、全員委員会にして、全員が入ることによって新しい人材も発掘できるということがあるから。入りたいと思っても、声がかかれへんから入ってないという人も中にはいてはったんで。だから、新しい PTA の形を考える中で、やっぱりいろいろ提案してもらったらいいと思います。

- で、OB 会は OB 会でみんな応援しようとは思ってますけど、OB 会のほうが多分 4 校、5 校輻輳があると思います。それをなかなかまとめていくというか。いろんな行事で各 OB 会に声をかけて参加してもらおうような行事をつくっていけば、ほんならいいと思うんですが。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ありがとうございます。前回の検討会議でもご意見が出ていましたけれども、5 校協議会という、名称は。

(委員)

- 5 校連絡協議会。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- 5 校連絡協議会。そういった場にも、例えば私どもがその協議会の場に時間を頂戴して行って、今の状況を説明させていただくとか、そういったこともやらせていただこうかなというふうには思ったりしています。それは、今、自分の案だけですけれども。
- また、PTA 組織は学校教職員と保護者の方の組織ですので、これは各学校の校長先生方とも相談しながら、どういった形で皆さんのお力添えができるかといったことをきっちりと考えていきたいと思います。なり手不足という話も重々いろんなところから話を伺っていますので、できるだけ子どもたち、児童生徒のために皆さんのご協力をいただきながらできるようにしていきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

(委員)

- いいですか。

(委員)

- はい。

(委員)

- まず、その PTA に関してなんですけれども。僕たちは子どもたちのために当然年間行事予定に沿って動いているんですが。新しい学校になったときにどういう行事をやっていくかによって PTA の形も当然変わってくると思うんです。まず、その新しい学校で何をすることも決まっていないう中で、新しい PTA を立ち上げたときに、じゃあ、どういった役割分担を担っていく委員をつくっていくかもまず今の現状では決められない。そういう場、そうい

う方向性をつくってくれたとしても、新学校でやることがわかれへんのにどういう動きをするのかというのが見えないんです。新しい学校はこういうことをしますよと言っているだけで、まだ中身が見えてきてないので、PTAとして組織ができたとしても動けない。まずそこを示してもらわないと、そもそもPTAをつくることに意味があるのかということにもなると思うんです。まして、やっぱり人は少ないんです。でも、生野小学校も全員会制にして皆さんどこかに入ってもらって何とか手伝ってくれませんかという形でやっているんです。それはもう出んでいいんやったら出えへんよと言う人のほうが、多分大半やと思うんです。でも、子どもたちのためにとってお手伝いしてくれるので。何も無いのにPTAは動かないし、PTAの意味をしっかりと踏まえて、まずどういうことをするのかを教えてください。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・ありがとうございます。今日、ちょっと樋口が所用で出席できておりません。
- ・ただ、新しい学校でどういったことをやっていくかというのは、また報告できる段階になれば本検討会議のほうでも報告させていただくということになっています。ですので、PTA組織をどうしていくか、どういう活動をしていくかということに関しましても、今、委員からありましたように、学校がどうなるのかといったこともまたきっちりと報告できるようになれば報告させていただきながら検討いただくという形にはしたいと思います。
- ・まずは、PTAとしてどうしていくかというのを、今、言いましたようにもう開校まで1年半となってますんで、どういう形で進めていくか。委員からもありましたけれども、それぞれ今のPTAがどうしてこうという意識があるのかといったことも含めて、まずは話し合いをするような場という形をつくっていければと思いますので、よろしくお願いします。

(委員)

- ・済みません。PTAの分を決めていくのはあれなんです。まず、この義務教育学校というのは、要は全校区を一本化するのか、別にするのかと、まずそれを決めないと。多分PTAも少ないにしろ、多分これの方向性が定まってないと、なかなかつくれるものもつくられないと思うんですけれども。
- ・それと、よく言われるのが、今まで前期と後期、多分この場合だと6年と3年ということに分かれると思うんですが。今まで小学校6年生で卒業式、そこで小学校を卒業するという、最高学年という事実、次に中学生に上がるという過程なんです。一本化した場合、全く卒業式というのは、6年間で一旦ここで中学生というんで、名前がなくなるんで、それを中1ギャップとかいうのを解消というのもあるんですが、義務教育学校で中1ギャップじゃなしに、またそれと違う学年のギャップもあるというのも聞いておるんですけれども。この生野未来学園というの、要は前期と後期を別にすんのか、一本化するのかというのを明確に決めないと、多分何も決めれないと思うんです。その辺をちょっとご意見をお願いしたいんですが。

(委員)

- ・済みません。ちょっとしょうもないことを1つ聞きたいねんけど。初年度卒業生ですが、僕らのところは卒業証書のファイルをOB会が全部出しているんです。他の学校は何か知ら

んけれども、筒とか。昔は筒やったんですが。そのあれはどないなるん。しょうもないことで、ごめんやで。それは委員会が出すの。学校予算でやるの。

(委員)

・それは、そやけど。

(委員)

・今、ふっと思ったんやけど。

(委員)

・そもそも、なんでそれが民間から金出さなあかんのですか。

(委員)

・どこ。

(委員)

・そもそも民間が金出すんです。

(委員)

・民間というか、OB 会が。

(委員)

・要は、公費じゃないわけでしょう。あれは要らんかという観点なんですか。必要ないから。

(委員)

・お祝いとして OB 会が何かをあげようということでやり出したことやから。

(委員)

・必要なもんやったら公費で買いやと。

(委員)

・だから、別に無かったら無かったらでええと思っています。

(委員)

・ええの。

(委員)

・どうなんですか。

(委員)

・どうなのかはっきり。

(楠井生野中学校長)

・一応、多分各校そうだと思いますけれども、本校も卒業証書のバインダーは OB 会のほうから寄贈していただいています。これも多分小学校そうやと思うんですけれども。PTA のほうからは子どもたちに印鑑を記念ということでいただいています。それが寄贈していただければ、必要であれば学校のほうで。

(委員)

・公費で多分買うと。

(楠井生野中学校長)

・公費で買うか、各個人に渡るものになりますので、どうしても必要なものであれば徴収金で購入するとかというようなことになるかもしれません。そのあたりは、だからどうして

いただけるかというところにかかってくるかとは思いますが。

(委員)

- ・今の話は、OB 会がええ格好をしたいからあげるんやろという、そんなイメージではないんですが。一応お祝いとして子どもらにあげていこうというのを継承してきてただけのことであって。そやから、新校になったときに OB 会が 4 校、5 校、5 つあるとなったら、そこからどう割り振んねんとか、難しいですね。

(委員)

- ・ごめんやで、しょうもないこと聞いてもうて。何かふっとそれを思ってもうて。僕らは、今、出す方にいてるから、出すのが当たり前や思うて出してるから。そう考えたら、新しい学校の第 1 期の卒業生というのはどういうふうになんのかなという、何げに思ってもうたから聞いただけやけども。

(委員)

- ・ただ、卒業生というのは小学校課程卒業というので一応卒業式をするのか。それも省いて、未来学園として卒業式を 9 年間終わってからするんか。その辺もどうなのと。

(委員)

- ・その辺をよく聞かれるんです。小学校課程で卒業するのか。そういう式典みたいな形をするのか。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・済みません。そこもちょっと樋口に。
- ・これまで例えば前期課程、後期課程とここで書いていますのは、あくまでも 6 年間と 3 年間で、そのこの節目の行事をどうするのかといったこと、これはちょっと義務教育学校なのか小中一貫校なのかというのはあるんですけども。例えば、節目として、その課程の修了式といった行事を兼ねるという場合もあるというような話では聞いています。ただ、その辺も含めて、今、それぞれ新しい学校をどうしていくかといったことを、校長先生方と樋口のほうで検討していただいています。その中で、本当に、委員からありましたように、新しい学校がどうなっていくのか、どのようなことをしていくのかといった中の一環で検討いただいているというふうには思っていますので、明言できなくて申しわけありませんが。

(委員)

- ・そやけど、私学とかに進学する、中学校受験とかする子は、小学課程の成績表が要るんちゃうん。

(楠井生野中学校長)

- ・義務教育学校なんで、前期課程と後期課程に分かれているというのは、今ある学習指導要領は小学校の学習指導要領と中学の学習指導要領しかありませんので、義務教育学校の学習指導要領はなく、義務教育学校も今ある学習指導要領に準じて、そこに合わせて教育課程を編成するよというのが国の方針なんです。基本的に、前期課程というのはいうたら小学校の 6 年生までで、先ほどおっしゃっておられた中学受験する、そんなことはあってほしくないですが、中学受験をするということになれば、前期課程修了という形の節

目は、法的というか、小学校の学習指導要領を6年間で終えていますということで、前期課程修了ということで、そういう受験というのは多分可能だったんじゃないかなというふうに思います。だから、前期と後期に分かれているというのは、学習指導要領で学習内容というのはむちゃくちゃ勝手なことにはできないので。引っ越しする子もいますので、この学校で物すごい勝手なことをやっていて、小学校4年生で転校してみたら、そんなことは習ってへんとか、こんなこと習ってないのなどということも大変なので。そこは準じてやっていくことになります。

- ・中身についても、校長連絡会を毎月やっていますので、その中でいろいろ話をしております。例えば、やっぱり節目は要るだろうということで、校長5人の中では4・3・2という多くの小中一貫校がとっている節目をつくっていくべきだろうなというようなことを話をしています。あと、宿泊を伴う行事をどういう形で、どういう目的で、どう配置していくのが一番いいんだろうとか、図書室をどういうコンセプトでつくっていくのがいいんだろうかというようなことは、今、話し合いを進めているところです。もうこうなっています、こうやりますということは、ちょっとここでは言えないんですが。今、おっしゃっておられるくらいことは、私たち校長の中でも令和4年の開校を目指して方向性が定まっていますので、私たちもいろいろと考えていってはいます。

(委員)

- ・俺、初めて聞くんやけれども。それを決めるというのはここやねんで。いうたら部会という感じでその内容を、今、決めていくというのは、今の校長先生方が決めていくということや。それが決定機関になるんや。

(楠井生野中学校長)

- ・決定機関というか、教育課程を編成するのは、教育課程というとややこしいけれども、要は学校でどんな行事をやるといようなことを。

(委員)

- ・だから、そのことを全て決めていくのは先生なんや。

(楠井生野中学校長)

- ・それは学校です。

(委員)

- ・だから、今の現役の学校の先生方、校長先生らが決めていくということや。

(楠井生野中学校長)

- ・もう今のメンバーで決めていくしかないの。

(委員)

- ・それやったら何で、それは部会と一緒にやんか。いうたら、そうやろ。こういうふうにしていこうと思っているけれども、こういうふうと考えてんねんけど、それに対して俺らも意見は言えへんて言うてるやんか。

(楠井生野中学校長)

- ・はい。

(委員)

- ・でも、報告がないからどないなんのという意見が出るわけやんか。それやったら大体月に1回ぐらいやっているというんやったら、月に1回俺らも集まってるときにきちっと報告をしてもらわなあかん。こういう形で、今、進んでいますよ。決定じゃなくてもいいねんで。俺らも決定してないんやから。で、それに対して、こういうことやねんな、地域の人らもこういうふうに伝えられるというのもできるし。

(楠井生野中学校長)

- ・伝えていただける部分、全く進まない部分がありますから。

(委員)

- ・これを5回、6回やっているのに、金城君が何をやるかもわかれへんて言うた時点で、おかしいわけやな、本来は。
- ・そうでしょう。この本部会議の中できちっと校長先生らの部会の報告として上げてもらっていれば、こういうふうになっていくねんな、じゃあ、こういうふうな形でできるなということも考えられるわけやんか。俺ら白いわけやんか、今。何にも。PTAはどうしよう。行事が何かわかれへんわということ、そういうことやんか。お泊まりはどうしましょうか。そういう話も聞かせてもらってたら、こういうこともあんなねんなと、運動会というのはこういうふうにするのやなとか。決定じゃなくても、やっぱり報告はしてもらわないと。そっちで何をしてんねん、じゃあ、それはいつ決まねんという話やんか。違う？

(委員)

- ・まだそこまで進んではできてないんとかやう。

(委員)

- ・いや。ずっと毎月やっているわけでしょう。

(委員)

- ・毎月やっているけれども。

(楠井生野中学校長)

- ・毎月やっていますけれども、話し合う内容はそのことだけではないので。それ以外の、今現在の小中連携、小小連携のすり合わせもやっていますし。本当に内容としては新しい学校の教育内容のことだけを毎月やってもらおうと考えているわけではないんです。申しわけないんですが。それ以外に、やること、すり合わせることがたくさんありますので。ですので、毎月報告するというのは難しいかもしれませんが、前回ぐらいから割とどういう形でということは思っておられると思います。というのは、私たちもわかっていますんで、だからちょっと今日は目くばせだけしたのですが。マイクをとらせてもろたんですけども。そろそろ報告できることはしておいたほうがええかなと思って、今、やっていることをちょっと説明しました。

(委員)

- ・それやったら、もっと早めに言うといいて。

(川本政策推進担当部長)

- ・今、校長先生は5人いらっしゃる形になるんで、やっぱりそこを取りまとめて教育委員会が教育課程の編成をサポートしながらやっている状態なので、そういう意味で樋口のほう

からまた別途ちゃんと報告を入れさせていただくということで、また話を進めてまいりますので。

(委員)

- ちょっとその辺が、また毎回「うん？」となるような。やっぱり会議やねんから、やっぱりそういったところでどンドン発信してもらえなかったら、俺らはどういうふうにしていいのし。特に現 P の子らはそうやろね。僕らはもう子育て終わってるから、あんまりとやかく言いたくないけど。でも、この子らにしたら、さっきのは本音やと思うわ。何をしたいのか分からへんから、PTA 活動が必要なのかどうかもわかりませんというセリフを言わせる時点で終わってんねん、本来は。あと 1 年半しかないのに。それは、だからどこで決めているというのがわかれへんかったから。

(委員)

- ただ、PTA の行事というのは、やっぱり PTA が集まって決めていかんとあかんのとちやう。

(委員)

- でも、お手伝いとかありますやん。

(委員)

- 例えば。

(委員)

- 運動会のお手伝いとか、卒業式の準備のお手伝いとか、やっぱりいろんな形の学校に対するお手伝いというのは、今まで PTA はしてきているはずやから。それが俺の代で終わっているわけじゃなくて、金城君の代でもやるはずやから。だから、それはどうするのという話になってくる。金城君は、それを言うたわけやから。卒業式もあるのか、まだ決まっています。運動会でもどういった形でするのかもまだわかりません。何にもわかりません。じゃあ、PTA なんか要らんという話やね。それが金城君の意見やろ。それをもうちょっと、俺らが動きやすいように、OB 会でもそうや。筒がないからお金くださいと言われてたら、じゃあ、何とか OB 会で作るよとか、俺は考えるほうやから。でも、それがもうあれやったら公費でやりますわ、積み立てからやりますわと言うたら、それやったらやってやという話になってくるし。だから、もうちょっとこっちに振ってもらえるところは振ってくれたらいいと思うんやけど。お互いに新しい学校をつくっていこうとしてるんやったら。だから、教育課程は俺は言わへんし、一切、内容なんていうのは。ただ、やっぱり行事に関しては、そうやって、こういうことをしようと思っっているとか、現 P の子らには言うてあげてほしい。

(川本政策推進担当部長)

- 個別に現 PTA と調整するというのもあれでしたので、この場を活用させていただいて。

(委員)

- 基本的にはこの場がそういう会議や。今までこの話はなかったから、俺は初めて聞いたんやから。

(川本政策推進担当部長)

- わかりました。

(委員)

- ・ありがとうございます。ほか、何かありますか。

(委員)

- ・済みません。いいですか。

(委員)

- ・はい。

(委員)

- ・PTA 組織調査の資料を見せていただいたんですけども、私のイメージでは小中一貫校とか義務教育学校になっているところは人数が少ないから集まろうということで一緒になっているので、親御さんも少ないんじゃないかなと思うんですけど。
- ・小中別組織の PTA があって不都合がないとかという意見が書いてあるんですが、それは親御さんの数が多いから別組織で運営できているということなのか。備考のところは、困っている学校はないんですが、ただ聞き取りをしてくださった学校だけで、ほかにもいろいろ一貫校とかあるのかなというのをちょっとお聞きしたいんですけども。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・大阪市内については、これは小中一貫校の全てをここに記載させていただいています。あとは、近隣のところは抽出して聞いています。ほかの自治体を全て確認したわけではないというのがこの資料になっています。この別組織のところについては、別組織ということをお伺いしたので、別組織でやっていることについて何か不都合なことはないですかということを確認させていただいて、その上で特に今は不都合はないということであえて書かせていただいたというような状況です。
- ・ちなみに、この大阪市でいきますと、小中別組織になっているところ、そちらは元西淡路小学校と元淡路小学校ですけども、こちらの小規模校の再編というか統廃合といった形で小中一貫校にしているといった状況です。ですので、特に保護者の家庭が多いかどうかという、そういうわけではないはずです。

(委員)

- ・結局、中学校は今でも中学校 PTA が一応あるわけですね。生野中学校として。で、小学校は4校が1校になるから、だからそんだけ人数がふえるということです。4つあった組織が1つになるということやから、だから小学校分として前期の PTA があって、中学校は中学校分として後期の PTA があるという、そういうあれじゃないかな。

(委員)

- ・単純に考えたら、中学校にしてみたらありがたい話しかないです。別組織だろうが、同組織であろうが。小学校で PTA 活動を長いことされていて、中学校になったらもうやりませんという方は非常に多いんです。特に役員経験者の方の中にはすごく多いから、そういう意味では別々で不都合ないよ、一本化しないというのは持ち上がっているからということも容易に想像できるんで、こんなに中学校としては助かるのかなとは思いますが。

(委員)

- ・中学校の PTA と小学校の PTA は何か全然違うというイメージがあって、だから中学に入っ

たときには PTA をやってもしゃあないやんという小学校の PTA は割と多いと思う。そこがやっぱり小中が義務教育学校という中で 1 つになったら、その考えも違うようになると思うから、いいと思います。

(委員)

- ・一貫校になれば違うでしょうね。ずっと 9 年制やから。

(委員)

- ・そう。ほんで中学校の PTA は、今は違うかもしれへんけど、昔はやっぱり継承というか、中学校の PTA の役員をしていた者がこいつを会長にしたらええ、あいつを副会長にしたらええとかいう、そういう何か采配があったみたいなこともあるんで。だから、中学校に入ったら PTA はもう絶対にやらへんわという、小学校の PTA とか、会長とか割と多かったと思う。でも、一貫というか義務教育学校で 1 つの学校になったら、また全然違うと思います。そやから、それはもう新しい組織で考えてもらわんとしゃあないん違うかな。

(委員)

- ・ほんで、今、組織というものは施設でいうたら隣接型分離型のところが結構あって、その施設一体型、この未来は施設一体型になるんで、多分別組織で不都合がないというのは、別校舎にもう完全に分かれてしまうので、これは別にせざるを得ないのかなというのは、ちょっと、今、この資料を見て。で、隣接、分離、一体というので多分意見も違ってくるんじゃないかと思うんですが。

(委員)

- ・5 校の現 PTA で話し合うてもろたら一番早い。

(委員)

- ・それで、一緒にしようやて言うんか、中学校は中学校向きのというか後期の PTA があって、小学校は小学校課程の前期の PTA があって、それでええんちゃうかという人もおるかもしれへんし。
- ・そやから、各学校で持ち帰ってそんなことを検討してもろて、結局 PTA 代表で会長や副会長とかが出てきて 5 校で話し合って、それで決めんとしゃあないんちゃうか。

(委員)

- ・最終、もちろんそうせなしゃあないですね。民間組織やねんから。

(委員)

- ・ということで、ほかは何かないですか。

【その他（生野中学校体育館老朽化等について）】

(委員)

- ・川本さん、報告はないんですか。体育館の報告はないんですか。決まりましたという報告はないんですか。生野中学の体育館の建てかえの。

(川本政策推進担当部長)

- ・大変老朽化して、雨漏りもしているということで、この場でもいろいろご指摘を伺っておりますので、このあたりはまたご意見もいただいておりますので、持ち帰って検討するというので。

(委員)

- ・まだ持ち帰って検討段階や。

(委員)

- ・署名を集める。

(委員)

- ・署名を集めよか。

(委員)

- ・署名を集めてもあかんのやろ。

(川本政策推進担当部長)

- ・この場でもいろいろ施設のこと、再編整備計画の中に施設のことありまして、この前もご意見がいろいろあったように、ここの意見を踏まえて我々も検討するという、そういう形をとっておりますので、ここでのご意見を受けてまた我々も中で。

(委員)

- ・あと1年半しかないんですよ。

(川本政策推進担当部長)

- ・開校まではちょっとなかなか難しいかと。

(委員)

- ・何か大阪で初めての義務教育学校という特権というか、特区で何かどこからお金を持ってくるのかでけへんのですか。

(川本政策推進担当部長)

- ・特区となると、ちょっとあれですけども。もちろん。

(委員)

- ・国が言うてることをやろうとしてんねんから、国からお金を出せやと言うて、何ぼかってくるとか。

(川本政策推進担当部長)

- ・そうですね。当然、補助金もありますんで、ちょっとそういう形をとらないと。それと意見も踏まえて、やっぱり優先順位を上げるとか、そういったことが必要かなと思います。

(委員)

- ・前は建設委員会で押しかけて、何とか順番を飛ばしてとかいうのがあったけれども。

(委員)

- ・夜間照明とかどうするん。

(川本政策推進担当部長)

- ・夜間照明。生野小学校で。

(委員)

- ・あげるで。中古でええんやったら。

(委員)

- ・昔は、そのときの補助があった、補助金というか何かそういう夜間照明の。

(委員)

・ええよ、持って行って。そら中学の夜間照明があったほうがクラブ活動とか。ただ水銀灯やで。LED ちゃうから。

(委員)

・クラブの指導もまた大変になります。遅くてやるというのは、ちょっと難しいかもしれへん。

(委員)

・だって、廃校になる学校やから。あるもんはあるうちにとっておかないと。ソーラーもあるで。

(委員)

・生野中学校にもあると思う。

(委員)

・生野中学校にはあるん。

(委員)

・うん。

(委員)

・メガソーラーにしたら。夜間照明は、でも考えてみてよ。子どもがやるんやったら全然持って行ってもらっていいです。

(委員)

・温暖化対策で国が言うてるから、それでお金をとってきて、ソーラーにして、照明代を浮かすとか、考えなあかんね。

【その他（行政からの情報発信について）】

(委員)

・その他の質問でもいいですか。

(委員)

・はい。

(委員)

・さっき制服のときもちょっと言わせてもらったんですけども、幼稚園や保育園のほうにも、もうちょっと情報を回してあげてほしいなと思います。特に、小学校とかやったらあれなんですけど、1人目のお母さんとかが、初めて行く小学校が義務教育学校で1年から9年で、かなりパニックというか、よくわからん方向に進んでいるお母さんもおるかなという。もうランドセルに関しても1年だけやったら買えへんとか、何かすごい方向に向かっている方もおられましたので、区長さんもお忙しいとは思いますが、こういうママさんのことはよく御存じだと思いますので、できたらそのあたりで時間があれば訪問していただいて、話を聞いてあげるなり、忙しかったらプリントでも各幼稚園に配ってあげるとかしていただいたらなと思います。

(委員)

・その他、ありますか。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・ありがとうございます。今、区長にということだったんですが。
- ・実はそういったご意見をこの間にいろいろといただいています。特に未就学児、お兄ちゃん、お姉ちゃんがいてる未就学児ではなくて、未就学児だけのご家庭の場合、なかなか情報が伝わっていないといった話を伺っています。この検討会議のニュースとかを各学校を通じてお配りさせていただいているところで、各連合に回覧をお願いしたりとかということをやらせていただいているんですが。その段階で近隣の幼稚園、保育園、そういったところに例えばチラシを置かせていただくとかといったことを。最初の説明会とかは常にさせていただいていたんですけれども、こういった会議の結果というものではできていなかったという事実がございます。こういった会議のものもお知らせするといったのを工夫して、まずはそういった媒体で、物でお知らせする。もしくは SNS を使うとか。そういったのをどんどん工夫していきたいと思いますので、またいいアイデアがありましたらお伺いできればと思います。よろしくをお願いします。

(委員)

- ・今回の議事録というか、あれももらっていないですね。会議録はまだできていないのですか。いつも前回の会議録とニュースと。ニュースのほうは学校から子どもたちが持って帰りするんですが。それは今回はまだもらえてないと思うんですが。

(大川地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長)

- ・ちょっとおくらしているようではございますけれども、すぐにまた送らせていただきますので、申し訳ございません。

【今後の日程について】

(竹中地域まちづくり課担当係長兼教育委員会事務局総務部教育政策課担当係長)

- ・済みません。次回の日程調整をさせていただきたいと思います。毎月第 4 水曜日の開催というふうにさせていただいております、それによりますと 11 月 25 日、次回水曜日となりますけれども、皆様、よろしいでしょうか。はい。それでは、来月 11 月 25 日水曜日、場所はまたご報告をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。
- ・それと、来月 11 月の専門部会の予定としまして、ちょっとおさらいをさせていただいております。まず、安全対策部会ですが、11 月 9 日月曜日、こちらは生野区役所で開催ということでございますので、委員の方はご都合のほうをよろしくお願いいたします。校章・校歌専門部会につきましては、11 月 11 日第 3 回目開催ということで、こちらも生野区役所で開催と。で、11 月 18 日、標準服等の専門部会という予定となっております。各専門部会の皆様、ご予約のほうを、お忙しいところ恐れ入りますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。

(3) 確認事項等

- ・標準服について、新しい標準服に求めるためのアンケートを保護者向けに実施し、次回の専門部会での意見交換の参考とする。貸与する種別等については、学校と教育委員会事務局が検討のうえ示される義務教育学校の教育課程を踏まえ、次回の専門部会において検討する。
- ・校章について、専門部会で絞り込んだ 6 案で保護者向けアンケートを実施する。アンケー

ト結果を参考に次回専門部会で校章案を選定する。

- ・校歌について、新しい校歌は作成せず、現在の生野中学校校歌を活用することとし、フレーズはそのまま、学校名部分のみを変更することとする。変更する学校名部分については、次回専門部会で意見交換する。
- ・義務教育学校開校後の行事等について、どういったことを行うのかなど、今後、この検討会議の場を活用して行政側から報告する。
- ・次回検討会議は、11月25日（水）とする。
- ・今後の専門部会の日程について、11月9日（月）に安全対策専門部会、11月11日（水）に校章・校歌専門部会、11月18日（水）に標準服等専門部会を開催する予定。

6 会議資料

- ・報告資料 1-1 標準服等専門部会の開催結果について
- ・報告資料 1-2 標準服等に関するアンケート
- ・報告資料 2-1 校章・校歌専門部会の開催結果について
- ・報告資料 2-2 校章アンケート
- ・参考資料 PTA 組織調査